

# 労働経済学

## —理論と実証をつなぐ—

川口大司

2017年12月発売／336頁／本体 2800円＋税  
A5判／並製



詳細を見る



編集  
担当者  
から

経済学のツールを用いて「労働」に関するさまざまなトピックについて分析する労働経済学が、現在ますますホットな分野となっています。現代労働経済学の特徴は、計量経済学や実験の手法を応用して、実証的な結果を提示することにあります。このような実証的な労働経済学は、労働に関するさまざまな事象やその因果関係を明らかにしてきました。

本書は、労働経済学の第一人者が、実証研究の蓄積を紹介し、理論の説明とのバランスを意識した構成で書き下ろしました。理論の説明では、高度な内容も扱っていますので中級者や大学院生でもかなり読み応えがある内容となっています。数式展開をできるだけ丁寧に追い、図での説明も適宜用いていることから、初学者や他分野専攻の学生さんでも、じっくり読み、初級ミクロ経済学のテキストを併読すれば内容を十分に理解できるようなつくりになっています。また演習問題も確認・発展・実証とレベル・タイプ別に豊富に設置していますので、理解の確認のためにもぜひ解いてみてください。

労働経済学は、雇用関係法などの現状分析・制度設計の検討の際に、労働法学分野との共同研究が活発に行われている分野でもあります。法学を学ぶ学生さんにもぜひともチャレンジしていただきたいテキストです。(岡山)

Index



変わりゆく日本の労働市場について述べられている第10章も示唆に富み、読み応えがあります。

- 第1章 労働経済学への招待：理論と実証をつなぐ
- 第2章 労働供給
- 第3章 労働供給モデルの応用
- 第4章 労働需要
- 第5章 労働市場の均衡
- 第6章 補償賃金格差
- 第7章 教育と労働市場
- 第8章 技能形成と外部・内部労働市場
- 第9章 労働市場における男女差
- 第10章 これからの日本社会と労働経済学